

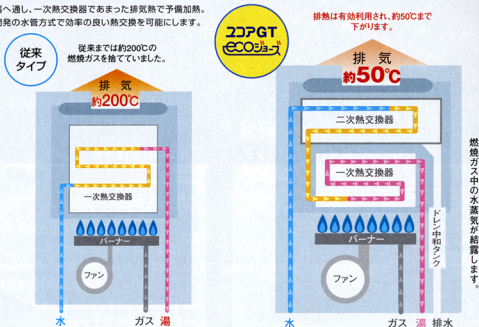


排熱を有効利用できる新構造。

燃焼ガスからさらに熱を吸収（潜熱回収）し、高効率化！

入水を二次熱交換器へ通し、一次熱交換器であまった排気熱で予備加熱。
二次熱交換器は新開発の水管方式で効率の良い熱交換を可能にします。

■給湯側概略図



●給湯側の熱効率 (JIS基準による)

従来タイプ

約80%

高効率タイプ

91% (JIS基準による)

●ふろ側の熱効率 (JIS基準による)

従来タイプ
約75%

高効率タイプ
79.4% (JIS基準による)

※ふろ側は従来品とほぼ同等

ドレン水の中和を行う中和タンク



二次熱交換器でさらに熱を吸収するため、燃焼ガスの温度が200°Cから50°Cまで低下します（潜熱回収）。その際に燃焼ガス中の水蒸気が結露し、ドレン水（酸性水）が排出されます。酸性水は中和タンクで中和処理をおこない、排水します。

※ドレン水は必ず排水する必要があります。水漏れ等の故障ではありません。

※冬場、排気口から、白煙（水蒸気）が出る場合がありますが、異常ではありません。

優れたメンテナンス性



ドレン水処理は、炭酸カルシウム方式を採用。中和剤の消費速度に対応した節流水路設計により、薄型コンパクト、高寿命を実現しました。

15年（相当）メンテナンスフリー

コアGTエコジョーズのドレン配管施工について

財団法人ベターリビング優良住宅商品認定基準
ガス配管部 66.5 GH:2024(2)より

雨水マスやベランダ側溝へのドレン水の排出が施工基準として示されました。
今後この基準を参考に、ドレン水排出の施工指導を行ってください。

※地域による違いは当該地域の下水道の管轄部署の指示に従ってください。

1. 設備設計について

●給湯の使用状況により異なりますが、燃焼時に80cc/分から100cc/分程度のドレン水が「ドレン排水口」から排出されるため、ドレン配管工事が必要です。

●機器からのドレン配管を雨水の系統に流す場合は間接排水にして、トラップはつけないでください。（雨水の系統に流す場合は雨水マス、雨水側溝に流してください。）

●機器からのドレン配管を汚水・雑排水の系統に流す場合は間接排水にし、臭気対策としてトラップを必ず付けてください。（この場合、長期不在の時、臭いが出る場合があります。注意を促してください。）

2. コアGTエコジョーズ (GT-C2431・C2031シリーズ) の具体的なドレン配管施工方法について

戸建住宅	壁掛・据置設置	雨水マスへ	01
		排水マスへ	02

〈戸建住宅の場合〉



図1 機器が戸建設置で雨水マスへ排出する場合



図2 機器が戸建設置で汚水マスへ排出する場合